

八重山病院

これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	八重山病院	所 属 ・ 部 門	経営課
項 目	1 コロナ病床の確保		

(1) 対応、取組、実績
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応 令和2年4月から令和5年9月まで県からの指定及び医療フェーズに応じてコロナ病床を確保した。適宜、県と確保病床数の協議を行った。 ・ 実績 適用された最大の即応病床数は47床であった。
(2) 評価
受け入れ拒否することなく受け入れた。
(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）
感染症病床や結核病床のような病床単位ではなく、病棟単位で多くの感染患者を受け入れてきたことは今後の参考になると考える。

これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	八重山病院	所 属 ・ 部 門	医事課
項 目	2 病院経営への影響		

(1) 対応、取組、実績

令和2年より、診療報酬上の臨時的な取り扱いが次々と発出されたため、取り漏れのないよう日々新しい通知の確認と運用の確立に取り組んだ。

(2) 評価

取り組みの結果、診療単価が上昇し、経営に良い影響を与えた。

＊入院単価：R1年度 45,214円、R4年度 56,518円

＊外来単価：R1年度 12,220円、R4年度 15,554円

(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

平時から新興感染症にかかる診療報酬を設定しておくことで、新興感染症が発生したときに医療機関の混乱が幾分か抑えられると考える。

これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	八重山病院	所 属 ・ 部 門	経営課
項 目	3 コロナ関連補助金の活用		

(1) 対応、取組、実績
<p>コロナ禍による患者数の減少で医業収益が減少したが、病床確保料等のコロナ関連補助金により補填できた。また、コロナ関連補助金により医療機器等の整備ができた。</p>
(2) 評価
<p>各種コロナ関連補助金を活用できた。</p>
(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）
<p>コロナ関連の補助金に関する業務について、担当の負担が大きかったので、局全体で対応して管理する体制ができたなら良かったと考える。</p>

これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	八重山病院	所属・部門	医療安全管理室 感染管理担当
項 目	4 感染対策チームの取組み（院内・院外）		

（１）対応、取組、実績

<院内発生時>

主に感染対策チーム（以下：ICT）で対応。標準予防策＋接触＋飛沫＋空気（エアロゾル）感染予防策を開始。それと同時に、感染経路調査と濃厚曝露者選定を開始。感染経路不明の場合は、発生部署職員やその部署に関わる職員全員に対しPCRスクリーニング検査を実施した。最後の発生から全ての陽性患者、濃厚曝露者の隔離期間が終了を確認後、対策終了とした。院内発生時にはその都度、保健所へ報告を行っている。

地域流行している場合は家族内発生による職員濃厚曝露者、陽性者で多くの職員就業停止者が発生していた。その際は、緊急処置や緊急手術以外を制限する事や外来停止、部署閉鎖などで対応していた。

<地域施設発生時>

施設側から沖縄県コロナ対策本部、保健所へ報告し、県コロナ対策本部または保健所より八重山病院 ICT へ依頼があった。保健所が施設側と日程調整を行い、ICT と同行し感染対策支援を実施した。施設職員、患者へのスクリーニング検査に関しては、保健所と慢性期医療機関が調整し対応していた。スクリーニング結果に応じて、ゾーニングを行った。当院で治療後酸素需要が無い患者に関しては、保健所が調整し、他急性期病院へ搬送することで、当院での COVID-19 に限らず急性期患者や重症患者の受け入れをする事ができた。

<平時の対策>

慢性期医療施設により、地域施設へのワクチン接種を実施。教育関連では、沖縄県、保健所、看護協会が主催する地域施設向けの感染対策講義を行った。その他は施設側より、八重山病院 ICT へ講義依頼あり実技指導を含めた講義を行った。施設側からの電話相談なども平時から行なっている。

（２）評価

<院内発生に関して>

2021年に発生した院内発生時は、濃厚曝露者選定の際の、正しい情報提供について課題があった。それを機会に「体調不良者情報」、「新型コロナウイルス陽性者・濃厚曝露者」報告用紙を作成し、正しい情報が ICT で管理できるようにした。

当院での、院内発生による患者、職員の死亡事例や重症化・後遺症などの事例は確認できていない。

<地域施設発生に関して>

当院への依頼のタイミングは、すでに複数名発生後である事がほとんどである為、その時点では、施設内入所者と職員への感染伝播があり、後手の感染対策がほとんどであった。感染を予防する観点では、難しい状況があった。

平時からの感染対策教育が不十分であった可能性があり、1例持ち込みから集団発生になる事例がほとんどであった（ほぼ、職員持ち込みによる集団発生と考えている）。

どの施設においても、職員体調管理不十分であった可能性が考えられた（職員不足により、軽微な症状がありながらの就業）。

<平時の対策について>

発生時のみではなく、日頃からの標準予防策教育については今後も継続する必要がある。

(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・ 平時からの標準予防策教育が重要。また、感染管理担当医師専従、感染管理認定看護師の複数体制（院内感染対策の強化、地域教育回数の拡充）。
- ・ ICTメンバーの給与を増額するべき（感染管理担当医師：特に手当なし。感染管理認定看護師：夜勤手当、休日手当などが無く、給与減少。専従希望者がいない。薬剤師：特に手当なし。細菌検査技師：特に手当なし。事務部：陽性者数の報告など。特に手当なし）。感染管理認定看護師は、新型コロナウイルス関連での手当については、レッドゾーン内で就業していないという理由で手当が付与されていない。現場教育、感染管理業務に従事する職員に対しても手当を付与できないか。モチベーションの維持するためにも給与面での検討は必須と考える。
- ・ 院内感染対策の継続と充実、地域への感染対策支援を実施するためにも複数名専従体制は今後必須と考える。
- ・ 院内感染対策においては、管理者より「手指衛生」、「環境整備」などを当たり前のように日々命令し、現場実践できる職員教育と安全文化の醸成が必要であると考える。
- ・ 手指消毒剤、環境クロスなど数種類導入（2社選定）。また、安定供給が必要な薬剤など（抗菌薬など）は、薬品会社を2社選定し購入する。

これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	八重山病院	所 属 ・ 部 門	感染対策チーム／総務課
項 目	5 離島診療所における患者の島外搬送		

(1) 対応、取組、実績

令和2年2月に沖縄県はじめて新型コロナウイルスが確認された時期に、八重山地区では令和2年2月6日に保健所が中心となり新型コロナウイルスに関連する関係機関連絡会議が開催された。

その中で八重山地区には竹富町や与那国町を含む12の有人島があり、2次離島からの患者搬送が大きな課題となった。その後の連絡会議等で2次離島からの患者移送に関するスキームについて協議が行われ、患者移送フローを確認した。

搬送実績 (単位：人)

搬送元	令和3年度	令和4年度	令和5年度	総 計
与那国町	17	1		18
竹富町		4	9	13
多良間村		1		1
総 計	17	6	9	32

(2) 評価

関係機関で協力し互いのやるべき事が明確にできたのが評価出来る。

(3) 課題 (次の波や新興感染症に備えて)

同時期に別の診療所で搬送依頼があった際の対応など、イレギュラー事案が発生した場合。自然現象で仕方がないことだが、搬送に関しては天候に大きく左右されるのが課題。